

快進撃は止められない!! TEAM RED ZONEが総合優勝!



昨年の66周を大幅に上回る71周という新記録を打ち立てフィニッシュしたTEAM RED ZONEの“freedom”が総合優勝を飾った。

5hours endurance —5時間耐久レース— FIA OLYMPIA / DREAM / CHALLENGE CLASS



年で27年めを数えるソーラーカーレース鈴鹿2018。太陽光から得られた電気のみを動力とする、日本で最もエコロジカルなモータースポーツイベントに、今年も高校生の部活から社会人クラブまで計46台のソーラーカーがエントリーした。

西日本の広い範囲に甚大な被害をもたらした7月の豪雨は、大会に向けて準備を進める各チームにも大きな影響を及ぼしていた。2016年、2017年と連覇を果たした「TEAM RED ZONE」がDREAMクラスへ移籍し、強豪「芦屋大学ソーラーカープロジェクト」が優勝候補筆頭とな

ったFIA OLYMPIAクラス。ここに参戦する「呉港高等学校」は、マシンの制作が大詰めを迎えた段階で豪雨災害の影響を受け、片道2時間の迂回路を毎日通って今回のレースに間に合わせてきた。その大会出場に向けた熱意と努力には心からの賞賛を送りたい。

名古屋で観測史上初の気温40度超を記録した1日目、FIA OLYMPIA / DREAM / CHALLENGEの3クラスが同時に出走するフリー走行。最初にピットを飛び出した「OSU 大阪産業大学」のOSU model S' (DREAMクラス)が、目論見通りクリアラップを駆け抜けて

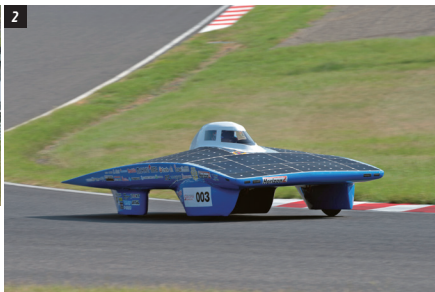
トップタイムをマーク。RED ZONEのfreedomは縁石を大胆に踏んでいく限界アタックを見せるも、バックマーカーに捕まってしまい、2番手に沈んでしまう。

だが、ここで誰も予想外の伏兵が現れた。昨年度は5位に入った「名古屋工業大学ソーラーカー部」のHorizon Z (FIA OLYMPIAクラス)が、OSUを約12秒も上回る3分34秒252でファステストを奪ったのだ。「昨年より車高を50mm落として安定性を増し、さらに空力の見直しや軽量化などやれるだけのことはやってきました。スタッフもタイヤ交換など練習を重ねてきましたし、もちろん優勝を狙います」と藤井監督。

決勝ヒートはさらなる猛暑となることが予想され、急速ドリンクボトル携行など熱中症対策



1.晴天に恵まれ絶好のレース日和となった今大会、過酷な暑さとの勝負にもなった。2.予選でコースレコードを叩き出した名古屋工業大学ソーラーカー部はFIA OLYMPIAクラスで優勝。3.紀北工業高等学校 with OBはCHALLENGEクラスで優勝した。



FIA OLYMPIAクラス優勝 名古屋工業大学ソーラーカー部

「車高を下げるなど、昨年に比べて大幅な空力改善に注力したことが今回の大きな勝因だと思います」(藤井監督)。「パソコンを使って空力解析をし、パーツ設計も厳密に行ったのがレースにフィードバックできたので良かったです」(日比野氏)



DREAMクラス優勝 TEAM RED ZONE

「決められたルールの中で一番性能が発揮できる部品を選択し、鈴鹿専用の設計を施したクルマづくりができたことがキープポイントだと思います。ここ10数年の間でも一番晴れて、ハイスピードの印象に残るレースでした」(野村監督)



CHALLENGEクラス優勝 紀北工業高等学校 with OB

「パネルの発電が良くないので曇るように祈っていたんですよ。レース終盤は発電量が少なく厳しい戦いでした。2003年から使用している車体は性能的にはもう限界が来ている気はしますが、結果的には優勝できて良かったです」(中間監督)



が全車に義務付けられることとなった。そして2日目、予報通り鈴鹿の空は朝から雲一つない快晴。ソーラーカーには恵みの空でも、エアコンのないマシンに乗り込むドライバー達には厳しい天候だ。

8月4日12時、いよいよ5時間にわたる熱戦が幕を開けた。1コーナーにサイドバイサイドで飛び込んだRED ZONEと名工大、その後方からOSUが虎視眈々と隙を窺う。DUNLOPコーナーでトップに立ったRED ZONEは少しずつ後続を引き離し、2番手にOSU、続いて名工大というオーダーで1ラップ目を終えた。

優勝候補の芦屋大学がマシントラブルにより早々に戦線離脱するという大波乱の中、各車とも4分20秒〜30秒台で纏めて淡々とラップをこなしていく。トップのRED ZONEとの差が1周以上に開いたのを見たOSUが33ラップ目から少しずつペースを上げていくと、ラ

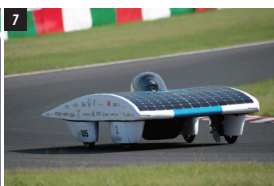
イバルの動きを見たRED ZONEもすぐさま反応し、1周のアドバンテージを守るべくペースアップ。1周という距離を挟んで互いの腹を読みあう、2台の静かな戦いが続く。

一方、にわかに激しさを増したのが3番手争い。「愛知工業大学チャレンジプロジェクト」のSolar Power AIT IV(DREAMクラス)が、前を行く名工大を同一ラップ内で猛追し、ついに視野内に捉える約7秒差まで追いつけてきたのだ。何とか後続を引き離したい名工大だったが、36周目に「最初のピットインでは落ち着いてタイヤ交換とドライバー交代を行うため」にマシンをピットの中へ。これで3番手には愛工大、さらに両者の間に「静岡ソーラーカークラブ」のFALCON(DREAMクラス)が割って入り、名工大は5番手まで順位をドロップしてしまった。

間もなく残り1時間となる48ラップ目、再び総合3位表彰台を巡る戦いが激しさを増し

た。3番手の愛工大がピットレーン速度違反でピットストップペナルティを受け、約1分30秒あった後続とのマージンを約10秒まで吐き出してしまったのだ。さらに静岡がピットインした際に再び4番手に浮上していた名工大が、愛工大のマシントラブルによる緊急ピットインでまたもや3位争いに復帰。テールトゥノーズの鏝競り合いの末、ついに名工大が3位表彰台へと返り咲いた。

レースは「鈴鹿スペシャルとして徹底的にマシンを仕上げてきた」というRED ZONEが、最後まで1位の座を明け渡すことなく総合優勝(DREAMクラス1位)。総合2位にOSU(DREAMクラス2位)、総合3位には愛工大の猛追から逃げ切った名工大が入り、あわせてOLYMPIAクラス優勝を飾った。DREAMクラス3位には愛工大、OLYMPIAクラスは2位に呉港高等学校が、3位に「大阪工業大学 TEAM REG



4.FIA OLYMPIAクラスの2位は呉港高等学校の「夢創心」。5.OSU大阪産業大学の「OSU model S」はDREAMクラスの2位。6.CHALLENGEクラスの2位は堺市立堺高等学校科学部の「SCIENCE 718」。7.大阪工業大学 TEAM REGALIAの「Cielo」はFIA OLYMPIAクラスの3位。8.DREAMクラスの3位は愛知工業大学チャレンジプロジェクトの「Solar Power AIT IV」。9.社会人自主創造科学工房Cabreoの「ラビリンズ号」はCHALLENGEクラスの3位。



総合優勝のTEAM RED ZONEは、昨年はFIA OLYMPIAクラスでの出場だったが、今年はDREAMクラスに変更した。途中で細かいトラブルに見舞われながらも、他を寄せつけない速さで優勝した。

総合順位	参加クラス	チーム名	周回数
1位	DREAM	TEAM RED ZONE	71
2位	DREAM	OSU 大阪産業大学	69
3位	OLYMPIA	名古屋工業大学ソーラーカー部	64
4位	DREAM	愛知工業大学チャレンジプロジェクト	63
5位	DREAM	静岡ソーラーカークラブ	63
6位	OLYMPIA	呉港高等学校	59
7位	CHALLENGE	紀北工業高等学校 with OB	57
8位	CHALLENGE	堺市立堺高等学校科学部	56
9位	DREAM	アステカ・レーシングチーム	55
10位	OLYMPIA	大阪工業大学 TEAM REGALIA	48

ARIA)が、それぞれ入賞した。

CHALLENGE クラスは序盤から「TeamM
AXSPEED」が快調に飛ばして後続を引き離し
ていたが、残り1時間を切った段階で痛恨のタ

イヤバーストを喫してしまう。

その結果、優勝は「今年で定年を迎える中岡
進監督に良いプレゼントができた」という「紀北
工業高等学校 with OB」が同クラス3連覇を

果たし、2位に「堺市立岸高等科学部」が入
賞、3位には初出場の「社会人自主創造科学工房
Cabreo」が入り、ドライバーを務めたメンバ
ーが表彰台で喜びを爆発させていた。

4hours endurance —4時間耐久レース— ENJOY I / ENJOY II / CLASS

8月4日7時にスタートしたENJOY
クラスの4時間耐久。今回は18歳
以下のENJOY I、社会人クラブ
のENJOY II という従来のクラスに加えて、
リチウムバッテリー搭載車のENJOY-LIが特
別クラスとして設けられ、DREAMクラスに参
戦する芦屋大のマシンを借り受けた「野村商
会・社長の道楽? with 芦屋大学」チームが1台
のみで出走した。

ホールショットを奪ったのは、3番手スター
トだった和歌山大学ソーラーカープロジェクト
のそれいけ☆☆みかん号。だが直後のS字で
「平塚工科大学社会部」の平工コンセプト2018
がトップに立ち、シケイン手前で再び和歌山大
が先頭に立つなど、目まぐるしく順位が入れ替
わる。20周目までに平塚工高、和歌山大、そし
て「JAGつくばソーラーカーチーム」のSALE
EL SOLが一同となって周回を重ねていく状況
となった。

一方、昨年度優勝の「オリンパスRS」のOR
S-19は、グリッド2からのスタートながら中
段グループに飲み込まれて8番手。しかし各車
のラップタイムが毎周回ごとに上下する中、最

初にピットインを終えたオリンパスは1周を5
分17秒台に揃えて電力消費を抑えつつ、虎視
眈々と上位進出を狙い続ける。

レースが動いたのは、間もなくスタートから
2時間となる時だった。上位陣がドライバー交
代のためピットインする度に、淡々と周回を続
けるオリンパスの順位が上がり、各車ルーティ
ンを終えた時にはオリンパスが2番手まで浮上
していたのである。

さらに、残り1時間を切った頃からトップの
平塚工高のペースが落ち始め、あくまで一定の
スピードで駆け続けるオリンパスが平塚工高を
かわして先頭に立った。

ベテランならではの高精度の電力マネジメン
トを見せつけたオリンパスは、そのままトップ
でフィニッシュしてENJOYクラス総合2連覇
(ENJOY IIクラス1位)。総合2位には平塚工
高(ENJOY Iクラス1位)、総合3位は「千葉
黎明高等学校工学部」(ENJOY Iクラス2位)
が入り、来年度以降の雪辱を誓っていた。また
ENJOY Iクラスの3位は「Team宮工(宮崎工
業高校)」ENJOY IIクラスの2位にJAGつく
ば、3位が和歌山大という結果となった。



ENJOYクラス総合優勝のオリンパスRSは、車検の時にブレーキ
トラブルが発覚。決勝前夜に遅くまで作業をした甲斐あって、完
璧に修理できたことが、パーフェクトな走りにつながった。

ENJOY Iクラス優勝 平塚工科大学社会部

「バッテリーマネジメントの中で、最初から最後まで想
定していたラップタイムを常に意識しながら走り、それを
着実に積み重ねていったことが、今回の勝利へつな
がったのだと思います」(鈴木選手)



ENJOY IIクラス優勝 オリンパスRS

「晴天ということもあって45～46周のペースで行くた
めにターゲットタイムを5分20秒と決めて走りました。平塚
工科大学の追い上げも気にしながら途中でペースを上げ
るなど、想定通りのレース展開ができました」(山本監督)



10. ENJOY IIクラスの優勝はオリンパスRSの「ORS-19」。終始徹底したペース配分で2連覇を達成した。11. 平塚工科大学社会部の「平工コンセプト2018」がENJOY Iクラスの優勝。代々引き継がれたマシンを活かしての勝利だ。12. ENJOY Iクラスの2位は千葉黎明高等学校工学部の「RMCエンタープライズ周作」。13. JAGつくばソーラーカーチームの「SALE EL SOL」がENJOY IIクラスの2位。14. ENJOY Iクラスの3位はTeam宮工(宮崎工業高校)の「宮工MT-15」。15. 和歌山大学ソーラーカープロジェクトの「それいけ☆☆みかん号」がENJOY IIクラスの3位。

総合 順位	参加クラス クラス順位	チーム名 参加車両名	周回数
1位	ENJOY II 1位	オリンパスRS ORS-19	46
2位	ENJOY I 1位	平塚工科大学社会部 平工コンセプト2018	46
3位	ENJOY I 2位	千葉黎明高等学校工学部 RMCエンタープライズ周作	44
4位	ENJOY I 3位	Team宮工(宮崎工業高校) 宮工MT-15	44
5位	ENJOY I 4位	神戸高専ソーラーカーチーム	44
6位	ENJOY II 2位	JAGつくばソーラーカーチーム SALE EL SOL	43
7位	ENJOY II 3位	和歌山大学ソーラーカープロジェクト それいけ☆☆みかん号	43
8位	ENJOY I 5位	MTHS松工ソーラーカーチーム Diesonne	43
9位	ENJOY II 4位	近畿大学高専ソーラーカー 空美2018	42
10位	ENJOY II 5位	STEP江東 えこっくる002号	42